

参考図書

* コースでは、習慣形成が確立するまで、インプット型活動に集中するということろまでを扱いましたが、習慣化ができてから、習慣の中身を変え、コースでは扱えなかったアウトプット型活動にも役立つと考えられるものも入れました。

青野仲達（2015）『ハーバード式英語学習法』秀和システム

池上彰（2020）『何のために学ぶのか』 SB 新書

大津由紀雄（2022）『ワイド新版 英語学習 7つの誤解』ひつじ書房

岡田祥吾（2019）『英語学習 2.0』KADOKAWA

門田修平（2012）『シャドーイング・英語習得の科学』コスモピア

門田修平（2020）『音読で外国語が話せるようになる科学』SB クリエイティブ

門田修平（2024）『AI フル活用！英語発信力トレーニング』コスモピア

白井恭弘（2013）『英語はもっと科学的に学習しよう』中経出版

鳥飼玖美子（2011）『国際共通語としての英語』講談社現代新書

鳥飼玖美子（2016）『本物の英語力』講談社現代新書

森沢洋介（2005）『英語上達完全マップ』ベレ出版

山田優（2025）『Chat GPT 英語学習術 新 AI 時代の超独学スキルブック』アルク

Oxford, R. (1990). *Language Learning Strategies What every teacher should know*. New York: Newbury House (宍戸通庸、伴紀子 訳 (1994) 『言語学習ストラテジー 外国語教師が知っておかなければならないこと』凡人社)